

平成 27 年 7 月 30 日

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL 054-250-8750
FAX 054-250-8770

平成 27 年 7～9 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

現在（4～6 月期）の業況

『好調』が 1 業種、『順調』が 2 業種、『普通』が 3 業種、『低調』が 13 業種、『不調』が 1 業種。

7～9 月期の見通し

「情報サービス」、「観光・レジャー」の 2 業種が『やや上昇』、18 業種が『横ばい』となり、『好調』が 2 業種、『順調』が 1 業種、『普通』が 4 業種、『低調』が 12 業種、『不調』が 1 業種となる見通し。県内産業景気は緩やかながら回復に向かっている。今後は、観光・レジャー分野をはじめとした個人消費関連の盛り上がり、さらに景気底上げにつながることを期待したい。

調 査 項 目 業 種	業界景気	
	現 況 (4 ～ 6 月)	見 通 し (7 ～ 9 月)
製 茶	 → 	
食 品 ・ 飲 料	 → 	
家 庭 紙	 → 	
産 業 用 紙	 → 	
工 作 機 械	 → 	
民生用電器部品	 → 	
自動車部品	 → 	
二輪車部品	 → 	
建 設	 → 	
住 宅	 → 	
大型小売店	 → 	
食品スーパー	 → 	
自動車販売	 → 	
家電量販店	 → 	
運輸・倉庫	 → 	
情報サービス	 ↗ 	
外 食	 → 	
観光・レジャー	 ↗ 	
リ ー ス	 → 	
人 材 派 遣	 → 	

担当：出版担当 望月 毅、岩間 晴美

緩やかながら回復基調が持続

円相場や株式市場の安定で企業に安心感が出てきており、製造業を中心に、産業景気は回復傾向が続いている。非製造業も、韮山反射炉の世界遺産登録や外国人観光客の増加などから、観光・レジャー分野で明るさがみられる。個人消費に関しては、一部高額品の売れ行きは活発化しているものの、自動車販売、食品スーパーなどは盛り上がりを欠いている。一方、供給力・販売力の増強に向けた企業の求人は増えており、県内全体の雇用者所得増加が、個人消費の活発化につながることを期待される。

(1) 業界景気の現況について

県内産業（主要20業種）の現在（平成27年4～6月期）の業況は、『好調』が「工作機械」1業種、『順調』が「情報サービス」、「人材派遣」の2業種、『普通』が「家庭紙」、「民生用電器部品」、「建設」の3業種、『低調』が「食品・飲料」、「産業用紙」など13業種、『不調』が「二輪車部品」1業種となった。

前回（平成27年3月）調査との比較では、営業や販売業務で需要が高かった「人材派遣」が『普通』から『順調』に1ランク上昇し、その他の19業種の景況感は前回と変わっていない。

(2) 業界景気の見通しについて

平成27年7～9月期の景気見通しは、主要20業種のうち、『やや上昇』が2業種で、18業種が『横ばい』の見通しとなった。

『やや上昇』と見込まれるのは、首都圏を中心に受託案件が増加すると予想される「情報サービス」と、徳川家康公顕彰400年や世界遺産などのテーマを盛り込んだ宿泊旅行や9月のシルバーウィークの需要に期待がかかる「観光・レジャー」の2業種。

一方、『横ばい』の18業種のうち、『好調』を続けるのが、ものづくり補助金で設備投資マインドが上向き、高水準の受注額を維持するとみられる「工作機械」1業種。『順調』が続くのが、営業、販売、製造、IT、介護などの分野で高い需要が見込まれる「人材派遣」1業種。特色ある商品で高付加価値化を狙う「家庭紙」、低調だった前年実績は確保するとみられる「民生用電器部品」、建て替え工事や介護施設、こども園などの新設が予定されている「建設」の3業種が、『普通』のまま『横ばい』の見通し。また、贈答需要が低迷しそうな「製茶」、生産量は上向きものの水準は低い「食品・飲料」「家電量販店」、プレミアム商品券の政策効果が期待される「産業用紙」「外食」、内需が低水準にとどまる「自動車部品」「自動車販売」、購入見込み層の慎重姿勢が変わらない「住宅」、消費者の節約志向が続く「大型小売店」、「食品スーパー」、ウエートの高い輸送機械で落込みが予想される「運輸・倉庫」、医療・介護や農業の分野で案件増加に期待がかかる「リース」の12業種が、『低調』で『横ばい』の見通し。さらに、新興国・欧州向けが伸び悩む「二輪車部品」は、『不調』のまま『横ばい』の見込み。

なお、半期調査業種（2業種）では、プラス材料に乏しい「家具」、消費マインドの回復が遅れている「楽器」は、『低調』のまま『横ばい』の見通し。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の『現況』と『見通し』推移

年 次		平成24年		平成25年				平成26年				平成27年	
四 半 期		Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ (今回調査)
対象月(○は調査月)		7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥
業界景気の『現況』	(業種数)	好調 ☀	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
		順調 ○	0	0	0	1	2	4	5	1	1	2	2
		普通 ◐	4	3	2	1	3	6	7	5	5	4	3
		低調 ☁	12	15	16	17	14	9	6	13	13	13	13
		不調 ☔	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
	全業種の平均階級値	2.00	2.05	2.00	2.10	2.30	2.65	2.95	2.30	2.30	2.35	2.40	2.45
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
	不調：1												
業界景気の『見通し』	(業種数)	上 昇 ↗	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		やや上昇 ↗	0	1	1	2	2	5	0	1	2	2	2
		横 ば い →	16	19	18	17	17	15	12	19	18	20	18
		やや下降 ↘	4	0	1	1	0	0	4	0	0	0	0
		下 降 ↘	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点（6月調査であれば4～6月期）における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期（6月調査であれば7～9月期）の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。

調査時点…平成27年6月初旬

回答企業…県内主要20業種（131社）

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。

平成 27 年 7 ～ 9 月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

調査項目 業種	業界景気		静岡県内主要産業の見通し									
	現況 (4～6月)	見通し (7～9月)	生産量 (前4～6月期比 伸び率)	売上高 (前4～6月期比 伸び率)	生産量 (前伸び率 前年同期比)	売上高 (前伸び率 前年同期比)	操 業 度	需給 バランス	製品在庫水準	原材料価格の動向 (前4～6月期対比)	製品価格の動向 (前4～6月期対比)	受注残 (カ月)
製茶	☁ → ☁	☁	—	—	—	→	○	供給超過	過多	↘	↘	—
食品・飲料	☁ → ☁	☁	→	→	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.5～1.0
家庭紙	☉ → ☉	☉	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
産業用紙	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.0
工作機械	☀ → ☀	☀	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	1.5～7.0
民生用電器部品	☉ → ☉	☉	↗	↗	↗	↗	○	均衡	適正	→	→	0.3～3.0
自動車部品	☁ → ☁	☁	→	→	↘	↘	○	均衡	適正	→	→	0.1～1.5
二輪車部品	☂ → ☂	☂	↗	↗	↘	↘	◇	均衡	適正	→	→	0.5～3.0
建設	☉ → ☉	☉	—	↗	—	↘	◎	均衡	適正	→	→	3.0～9.0
住宅	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	○	供給超過	適正	→	→	1.0～6.0
大型小売店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
食品スーパー	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
自動車販売	☁ → ☁	☁	—	↗	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
家電量販店	☁ → ☁	☁	—	→	—	↗	—	供給超過	適正	→	→	—
運輸・倉庫	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↘	○	均衡	—	→	→	—
情報サービス	○ ↗ ☀	☀	—	↗	—	↗	◎	需要超過	—	→	→	—
外食	☁ → ☁	☁	—	↗	—	↗	—	均衡	—	↗	→	—
観光・レジャー	☁ ↗ ☉	☉	—	↗	—	↗	—	供給超過	—	→	→	—
リース	☁ → ☁	☁	—	↘	—	↗	—	—	—	—	—	—
人材派遣	○ → ○	○	—	→	—	↗	○	需要超過	—	→	→	—
＜特別調査 平成27年7～12月期 半期見通し＞												
家具	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	◇	供給超過	適正	→	→	0.5～1.0
楽器	☁ → ☁	☁	→	→	→	→	○	均衡	適正	→	→	—

表の見方と注意

業界景気の現況 見通し	業界景気の見通し	生産量・売上高の伸び率 原材料・製品価格の動向	操業度	需給バランス	製品在庫水準
好調 ☀	上昇 ↗	非常に増加・上昇 (+10%以上) ↗	100～90% ◎	非常に需要超過	非常に過少
順調 ○	やや上昇 ↗	増加・上昇 (+3～+9%) ↗	89～80% ○	需要超過	過少
普通 ☉	横ばい →	横ばい → (+2～△2%) →	79～70% ◇	均衡	適正
低調 ☁	やや下降 ↘	減少・下降 (△3～△9%) ↘	69～60% ●	供給超過	過多
不調 ☂	下降 ↘	非常に減少・下降 (△10%以下) ↘	59%以下 ●	非常に供給超過	非常に過多

(注) 特別調査(家具、楽器)は半期ベース(1～6月期の現状と7～12月期の見通し、前期比・前年比もすべて半期ベース)。
半期調査対象企業…2業種の企業8社。

主要業種の現況と 7～9 月期の景況見通し

業種	業界天気	冷茶の普及が夏季需要を下支え
製茶	☁ → ☁	(現況)・一番茶は空前の軟調相場で、前年価格を▲1割程度下回った。凍霜害もなく生産量は平年並みだが、急須で入れる高級茶の需要が低迷する中、製茶問屋は慎重な仕入れに終始した。二番茶価格も低迷し、生産を取りやめた茶園もあった。 (見通し)・7～9月の製茶問屋の売上は、前年並みの見込み。夏季贈答需要は低迷が続きそうだが、冷茶が夏の緑茶の楽しみ方として定着しつつあり、需要を下支えする見通し。昨年来、ワインボトル型の冷茶容器が人気になっており、こうしたツールをテコに冷茶を提案する茶商が増えそう。

業種	業界天気	ツナ缶生産量は低水準だった前年を上回る見込み
食品・飲料	☁ → ☁	(現況)・4～6月の県内の食料缶生産量は、前年並みとなった模様。主力のツナ缶は、消費税率引上げの反動減があった前年水準をやや上回ったとみられるが、農畜缶が苦戦し、全体では横ばい推移となった。飲料缶の生産量は前年を下回った。 (見通し)・7～9月の県内の食料缶生産量は、前年をやや上回る見通し。主力のツナ缶は、販売量の大きな増加は見込みにくいものの、低水準で推移した前年実績は上回るとみられる。飲料缶は、週末に天候不順が多かった前年実績は上回って推移するとみられる。

業種	業界天気	値上げで一息ついた再生トイレ紙、今後、高付加価値化を狙う
家庭紙	○ → ◐	(現況)・4～6月の家庭紙の生産量は、平年水準を確保した。ただし、前年は消費増税後の在庫補充で増産したため、前年比ではややマイナスとなった。年初から価格交渉が進められてきたが、再生トイレ紙は10%程度の値上げが実現した。 (見通し)・7～9月の家庭紙の生産量は、前年並みとなる見通し。値上げで一息ついた再生トイレ紙だが、3枚重ね、柄付き、香り付きなど特色ある商品が増えてきそう。製品の多様化が進むことで、価格面だけでなく付加価値面も含めた競争に変化し、最低価格への関心は以前より薄まる見通し。

業種	業界天気	段ボール原紙は景気刺激策による需要増を期待
産業用紙	☁ → ☁	(現況)・4～6月の産業用紙の生産量は、前年並みとなった模様。段ボール原紙は、主力の加工食品向けが底堅く推移し、生産量は前年水準を確保。原料の段古紙価格は高止まりしており、コストの上昇は深刻化している。 (見通し)・7～9月の産業用紙の生産量は、前年をやや上回る見通し。段ボール原紙は、プレミアム商品券など景気刺激策に伴い、家電向けなどの需要増に期待。白板紙は、飲料向けなど消費財関連の伸長を見込む。一方、コストが上昇しているが、メーカー間の思惑に差があり、価格修正は容易ではなさそう。

○好調 ○順調 ◐普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	内需が下支えし、高水準を維持する見通し
工作機械	  	(現 況)・全国および県内の受注額は、前年を+5～10%上回って推移した模様。外需は主力のアジア向けが堅調で前年並みを確保、内需は自動車向けが好調だったことから前年比+20%程度上回った。 (見通し)・全国および県内の受注額は、ともに前年並みとなる見込み。外需は、メインのアジアや欧州で弱い動きがみられるが、水準は高く前年比大きな落ち込みはない模様。内需は、ものづくり補助金による設備投資マインド向上が後押し、前年実績は維持する見込み。

業種	業界天気	低調だった前年をやや上回って推移する見通し
民生用電器部品	  	(現 況)・家庭用エアコンの出荷台数は、消費増税後の反動減があった前年を+1割弱上回った模様。また、冷蔵庫の出荷台数は、401ℓ以上の大容量モデルが伸長し、前年を+1割弱上回って推移した。 (見通し)・家庭用エアコンの出荷台数は、夏場の天候に大きく左右されるが、西日本を中心に天候不順が続いた前年実績は確保する見通し。また、冷蔵庫の出荷台数は、低調だった前年を+1割前後上回る見込み。これに伴い、部品メーカーの受注量は前年をやや上回るとみられる。

業種	業界天気	内・外需ともに低調で、国内生産は前年をやや下回る見込み
自動車部品	  	(現 況)・国内の自動車生産台数は、前年を▲1割程度下回った模様。輸出が伸び悩んだほか、内需も、特に軽自動車の落ち込みが大きく、前年を下回って推移した。部品メーカーの出荷高も前年を下回ったとみられる。 (見通し)・国内の自動車生産台数は、前年をやや下回る見通し。内需は、ボーナス商戦に期待がかかるものの、引き続きやや低調に推移する見込み。輸出も、北米向けを除き、増加は期待できない状況。部品メーカーの受注量も、前年並みの水準が予想される。

業種	業界天気	新興国・欧州向けが伸び悩み、国内生産は前年比やや減少
二輪車部品	  	(現 況)・4～6月の全国完成車生産台数は、前年を▲1～2割下回って推移した模様。国内販売が前年を下回ったほか、インドネシアなど東南アジアの新興国向けが低調だった。県内部品メーカーの生産量は、前年をやや下回って推移した模様。 (見通し)・7～9月の全国完成車生産台数は、前年をやや下回って推移する見通し。国内および北米市場は堅調に推移するとみられるが、インドネシアなどの新興国向けや欧州向けが伸び悩むとみられる。県内部品メーカーの生産量も、前年並みで推移する見込み。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	公共は前倒し発注の反動で減少、民間は設備投資が回復傾向
建設	  	(現 況)・公共工事契約額は、前年を下回った模様。景気対策で前倒し発注が行われた前年の反動で減少した。民間の工事費予定額は、飲食店・宿泊業向けの設備投資が伸びたものの、大型案件の着工があり高水準だった前年実績は下回った模様。 (見通し)・公共工事契約額は、前期に引き続き、前倒し発注により高水準だった前年実績には及ばないとみられる。民間の工事費予定額は、研修施設や社屋の建て替え工事のほか、介護施設やこども園の新設などが予定されており、前年を上回る見込み。

業種	業界天気	政策効果は限定的、消費者の慎重姿勢は続く見込み
住宅	  	(現 況)・新設住宅着工戸数は、前年を▲1割程度下回った模様。省エネ住宅ポイントなどの政策効果は限定的で、持家は前年水準に及ばなかった。また、相続案件が一段落した貸家も減少した。一方、大型マンションが着工した分譲は増加した。 (見通し)・新設住宅着工戸数は、前年をやや下回る見通し。住宅展示場への来場者数は戻りつつあるものの、消費者は住宅購入に慎重な姿勢を崩しておらず、持家は前年を下回ることが予想される。貸家も、供給過剰感から低調に推移しそう。一方で、割安感のある分譲は、底堅く推移するとみられる。

業種	業界天気	百貨店は高額品が伸長し、前年水準を上回る見通し
大型小売店	  	(現 況)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年を+1割程度上回った模様。百貨店は、消費増税後の販売落込みがあった反動もあり、前年を上回った。また、総合スーパーは、気温の高い日が続いたことから、夏物衣料の販売が底堅く推移した。 (見通し)・県内大型小売店の既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。百貨店は、株高を受けて、宝飾品や特選ブランドなど高額品の販売増加が見込まれ、前年をやや上回る見込み。総合スーパーは、消費者の節約志向が依然として根強く、厳しい環境が続くとみられる。

業種	業界天気	消費者の内食志向を背景に前年をやや上回る見通し
食品スーパー	  	(現 況)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回った模様。気温が高めで推移したことから、清涼飲料や氷菓などの販売が比較的好調に推移した。一方、メーカーによる値上げが相次いだ調味料などは振わなかった。 (見通し)・県内主要食品スーパーの既存店売上高は、前年をやや上回る見通し。消費者の節約志向を背景に、外食を控えて家で食事をする世帯が増加傾向にあるとみられ、底堅い需要が見込まれる。ただし、パンや菓子類など値上げが予定されている商品も多く、買い控えが懸念される。

○好調 ○順調 ⊙普通 ☁低調 ☂不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	モデルチェンジ効果や所得環境の改善でボーナス商戦に期待
自動車販売	  	(現 況)・県内の乗用車販売台数は、前年を▲5%程度下回ったとみられる。軽自動車の販売が増税の影響で2ケタ減となったことが響いた。登録車は、前年が低水準だったことに加え、人気車種の一部改良が注目を集め、前年水準は上回った模様。 (見通し)・県内の乗用車販売台数は、前年をやや上回る見通し。全体的には低水準にとどまるとみられるものの、登録車、軽自動車ともに、主力メーカーの売れ筋車種でモデルチェンジが予定されていることに加え、所得環境の改善も見込まれることから、ボーナス商戦の盛り上がりには期待がかかる。

業種	業界天気	低水準だった前年の実績は上回る見通し
家電量販店	  	(現 況)・薄型テレビの販売額は、4月のデジアナ変換サービス終了に伴って買い替え需要が増加し、前年を+3割程度上回った。生活家電は、消費増税後の反動減が生じた前年を上回り、家電販売額全体では前年を+1割前後上回って推移した。 (見通し)・薄型テレビの販売額は、4Kテレビへの買い替え需要の増加が期待され、前年を上回る見通し。タブレット端末との競合でパソコンは苦戦が予想されるものの、冷蔵庫などの生活家電は低調だった前年水準を上回るとみられ、家電販売額全体では前年をやや上回る見込み。

業種	業界天気	トラック輸送量は前年を下回るが、倉庫は前年水準を確保
運輸・倉庫	  	(現 況)・トラック輸送量は、食料品は堅調に推移したが、輸送機械や紙・パルプなどが減少し、全体では前年をやや下回った模様。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械の荷動きが鈍く、前年をやや割り込んで推移したとみられる。 (見通し)・トラック輸送量は、前年をやや下回る見通し。食料品や飲料などは好調に推移する見込みだが、ウエートの高い輸送機械で落込みが予想される。普通倉庫の入出庫高については、エアコンなどの電気機械や飲料関連の荷動きに期待がかかり、前年水準は確保できる見通し。

業種	業界天気	ソフト開発が堅調に推移する一方、S E など人材確保に苦戦
情報サービス	  	(現 況)・4～6月の全国の売上高は、主力のソフト開発が好調だったことから、前年をやや上回ったとみられる。県内も、製造業で大口案件が相次ぎ、首都圏からの受託案件も増えたことから、前年をやや上回ったとみられる。 (見通し)・7～9月の全国の売上高は、引き続きソフト開発が堅調に推移し、製造業や金融向け案件も増えるとみられることから、前年を上回る見通し。県内も、首都圏を中心に受託案件が増加すると予想され、前年を上回る見込み。一方、雇用面では、S E が不足しており、人材確保に苦戦しそう。

○ 好調 ○ 順調 ● 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	売上高は増加するも食材の値上がりで採算は厳しい
外食		(現 況)・主要外食店の売上高は、前年を上回った模様。異物混入問題などの余波が残る大手チェーン店もあるが、大多数の飲食店では、客数・客単価とも堅調に推移した。また、気温が高かったため飲料が売上を伸ばした。
	→ 	(見通し)・主要外食店の売上高は、前年をやや上回る見通し。賞与の増額など手取り額が増えた世帯が多いことや、地方創生関連のプレミアム商品券がプラスに作用する見込み。ただし、輸入食材を中心に食材全般が値上がりしており、採算面では厳しい状況が続く見通し。

業種	業界天気	政策効果と恵まれた曜日配列で前年比プラスを見込む
観光・レジャー		(現 況)・県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回った。「浜名湖花博2014」の反動減で西部地域が落ち込み、全体を押し下げた。ただし、主力の伊豆地区は、観光客が増加し、宿泊需要も安定していた。
	→ 	(見通し)・県内主要旅館の総売上高は、前年を上回る見通し。徳川家康や世界遺産など、県が指定するテーマを盛り込んだ宿泊旅行商品、約18万泊分に対して1泊当たり3,000円を助成するため大きな上積みが見込めそう。また、9月のシルバーウィークは曜日配列に恵まれプラスに寄与する見通し。

業種	業界天気	医療・介護や農業などの分野で案件増加に期待
リース		(現 況)・県内のリース件数・契約高は、前年同期が消費増税直後で低水準だったことから、前年実績を+2割程度上回って推移した模様。ただし、小口案件が増加しており、収益面では厳しさが続いた。
	→ 	(見通し)・県内のリース件数・契約高は、前年をやや上回るとみられる。一部の製造業で設備投資の大口案件が出始めているほか、非製造業でも医療・介護や農業などの分野で案件増加が期待される。一方、案件獲得のためのレート競争は激化しており、収益面では厳しさが増すとみられる。

業種	業界天気	営業や販売で高い需要、人手不足感が継続
人材派遣	○	(現 況)・4～6月の県内の実働派遣労働者数は、前年を+5～10%上回った模様。営業・販売業務では引き続き需要が高く、製造業務も、消費増税後の落込みがあった前年水準を上回り、堅調に推移した。
	→ ○	(見通し)・7～9月の県内の実働派遣労働者数は、前年をやや上回って推移するとみられる。引き続き、営業、販売、製造、IT、介護などの分野で高い需要が見込まれる。一方、供給サイドでは、SEなど専門的なスキルを必要とする人材や介護分野の人材の確保が難しく、人手不足感が継続する見通し。

○ 好調 ○ 順調 ⊙ 普通 ☁ 低調 ☂ 不調 業界天気は上段が4～6月期、下段が7～9月期

業種	業界天気	プラス材料に乏しく、需要は横ばいの見通し
家具 (半期ベース)	  	(現況)・県内の木製家具総出荷額は、前年水準をやや下回った模様。1～6月期 新設住宅着工戸数が伸び悩み、家具需要も低迷した。一部では、省エネ住宅ポイントによって受注を伸ばした業者もあったが、駆け込み需要が盛り上がった前年には及ばなかった。 (見通し)・県内の木製家具総出荷額は、前年並みとなる見通し。新設住宅着工戸数は引き続き低水準となりそうで、家具の需要もプラス材料が乏しい。収益面でも、円安基調を背景として原材料価格の高止まりが続くとみられ、調達先の見直しなど収益確保に苦戦を強いられそう。

業種	業界天気	米国のレンタル楽器利用者のクリスマス期購入に期待
楽器 (半期ベース)	  	(現況)・楽器販売額は、前年比▲2割の減少。国内は消費増税の反動1～6月期 減で前年比▲3割超の減少。主力のピアノが▲4割、電子オルガン、管楽器も▲3割の減少。海外は前年比▲5%程度と微減。北米は前年並みも、中国向けは伸び率低下、欧州は減少した。 (見通し)・楽器販売額は前年並みの見通し。国内は、横ばいで推移するとみられる。消費マインドの回復は遅れているが、ボーナス増額で生じたゆとりの一部は、楽器購入にも向けられそう。海外は、米国でレンタル需要が伸びており、一部はクリスマス期の購入に結び付くと期待される。

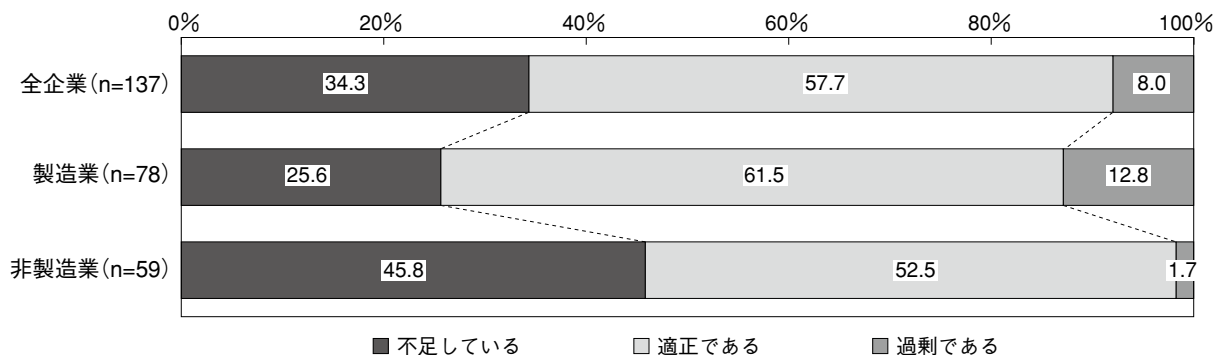
○好調 ○順調 ①普通  低調  不調 業界天気は上段が1～6月期、下段が7～12月期

前年と比べ「製造業」で人手不足感が強まる

県内企業に、現在の従業員の過不足状況を聞いたところ、「不足している」と答えた企業は34.3%（前年同期調査比+ 3.3 ポイント）、「適正である」は57.7%（同▲ 4.3 ポイント）、「過剰である」は8.0%（同+ 1.0 ポイント）となり、全体的に人手不足の傾向が強まっている。

業種別では、「不足している」企業の割合は、製造業が25.6%（前年同期調査比+ 8.9 ポイント）、非製造業が45.8%（同▲ 2.6 ポイント）と、非製造業の人手不足感が強いが、前年と比べると製造業で不足感が増している。個別業種では、運輸・通信業（57.1%）、建設業（50.0%）で「不足している」とした企業が多い。

図表 現在の従業員の過不足状況



調査要領：調査時点平成27年6月、調査対象企業数316社、回答社数137社、有効回答率43.4%